Ⅵ.子宮脱について

1.子宮脱とは

　子宮は靭帯という繊維や筋肉・筋膜（筋肉をつつむ硬い膜）で支えられています。この靭帯や筋膜が　弱くなり、子宮が下の方にさがって膣からでっぱってしまう状態を子宮脱といいます。

　子宮脱の原因はさまざまですが、高齢の方、お産の回数が多い方がなりやすい傾向にあります。

　子宮の前には膀胱があり、後ろには直腸があります。子宮がさがりでっぱると、膀胱や直腸も一緒にさがったりでっぱったりすることが多く、それぞれ膀胱脱（瘤）・直腸脱（瘤）と呼ばれます。

2.子宮脱の症状

　膣から何か出ているような違和感や不正出血、腰痛や下腹部の違和感などがあります。

　また膀胱脱や直腸脱があれば、尿がすっきりと出きらない、尿がちかい、尿がもれる、便秘などの症状がでることがあります。

3.子宮脱の検査

　診察台の上や立った状態で診察をします。患者さんに力んで頂いたり、子宮を引っ張ったりもどしたりしながら弱くなっている部分や脱の程度を判断します。症状によっては尿検査、膀胱の造影検査、尿失禁の検査を行うことがあります。必要に応じて泌尿器科を受診していただく場合もあります。

4.子宮脱の治療法

　　子宮脱の症状が強く、日常生活に不都合が生じる場合に治療が必要になります。治療にはおおきく二つあります。手術療法とペッサリー（子宮を押し上げておくためのリング状の器具）を膣の中に挿入する方法です。

○手術療法は一般的に膣式手術（お腹は切らずに膣の方から行う手術）です。

　子宮を摘出し、弱くなっている筋膜を縫い縮め補強したり、残った膣をつり上げたり、筋肉を縫い合わせたりします。尿失禁のための手術を追加することもあります。

○将来お子さんを希望される方には子宮を残す方法もあります。

○他の病気をもっているためになるべく短時間の手術が望ましい方、今後性交渉が全くないという方には膣を閉じてしまう方法もあります。

○ペッサリーを挿入する方法はうまくフィットすれば有効な方法です。おりものが多くなったり、膣の中がただれたりすることがありますので定期的に検診が必要です。器具の違和感が強かったり、尿もれがあったり、器具がどうしても出てしまうときは手術が必要になります。

以上

※おわかりにならない点がありましたらご遠慮なく担当医にお尋ねください。